

学校 教育 目標	～挑戦・発信・錬磨～					
	○主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】 ○人を思いやり、自分や周りを大切にすることを育てる。【徳】 ○様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】 ○社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】					
学校 概要	創立 46 周年	学校長 内田 克弥	副校長 下田 牧子	3 学期制	一般学級: 13	個別支援学級: 4
	児童生徒数: 472 人		主な関係校: 希望ヶ丘小学校 善部小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	南希望が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○課題解決力・発信力・コミュニケーション力 (「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」)  ○自己肯定感・協働・挑戦する気持ち (「学びに向かう力、人間性等」)	南希望が丘中 希望ヶ丘小 善部小	自分をとりまく人々と積極的に関わりを持ち、その中で自ら成長する子ども ・9年間のつながりを基盤に、生徒が意欲を持ち、相互に学び合う授業づくりを進める。 ・相互理解を深める機会を設定するために、小中合同授業研等を実施する。 ・子ども像を共有しながら、児童生徒指導や学習指導等の情報交換や共通理解を進める。

中期 取組 目標	○社会とのつながりを意識し、自ら課題を見つけ、その解決に向けて、他者と協働して、発信できる「学び」を充実させます。 ・1年目は、自らの考えを伝え合い、認め合う授業、行事等を推進します。 ・2年目は、生徒の思い、表現を大切にしながら、自らの意見を発信する場面を多く設けます。 ・3年目は、社会全体に目を向け、課題解決のために、他者と協働しながら、自分の考えを深め、自分の思いを的確に表現できるようにします。  ○学校、地域、家庭で連携して、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、何事にも自信をもって、挑戦する気持ちを育みます。 ・3年間を通して、一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえない」存在であることを実感し、個に応じた指導を充実させ、学校を自分らしく過ごせる「場」とします。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①生徒が互いに学び合い、充実感、自己肯定感を高めていける授業を推進する。 ②データに基づいた分析から授業改善を行い、ユニバーサルデザインを意識した授業を実践する。
担当	学力向上推進部・ICT教育推進部
徳 人権教育	①こども会議のテーマをもとに人権について考え、自他を大切にすることを育む。 ②学校教育活動全体で道徳教育を充実させ、一人ひとりの個性を認め、自尊感情を育む学校づくりを行う。
担当	道徳・人権推進部
体 健康安全教育	①休み時間に校庭で遊ぶ生徒の数を増やし、スポーツを通してのコミュニケーションの促進を図る。 ②健康・安全について主体的に実践できるよう、計画的に健康教育を実践する。
担当	保健安全指導部
公 キャリア教育	①3年間を見通したキャリア教育(職業講話・職業体験・校内高校附属説明会等)の構築、実践を行う。 ②横浜の時間(総合的な学習の時間)を核として、教科指導をマネジメントし、生徒たちが自分の思いを発信できる場を多く設ける。 ③今の「学び」が「将来」と繋がっていることを生徒に意識させ、キャリア形成を進められるよう各教科での取組を進めていく。
担当	総合キャリア学習部
開 ECDの推進	①教科等の学習内容とSDGs 17の目標とのつながりをSDGsカレンダー作成により示し、学ぶことの意味を考える機会の充実を図る。②生徒会・保健委員会等で、身近な課題や社会課題の解決に向けた活動になるようにするとともに、家庭・地域に発信する。
担当	ECD推進委員会
いじめへの対応	①定期的に生活アンケート及び面接指導を定期的(4月・8月)に行うことで、困り感のある生徒に気づく体制を整え、いじめの早期発見、早期解決に努めるとともに、生徒の気持ちに寄り添い、誰が安心して学校生活が送れるようにする。 ②いじめに対する教職員のアンテナを高くし、いじめを絶対許さない姿勢を教職員自らが示す。 ③生徒会、生活委員会の生徒とともに、いじめ未然防止の取組を推進する。
担当	いじめ防止委員会
人材育成・ 組織運営(働き方)	①各ステージごとにメンターチームを組織し、ステージ2の担当職員を中心に、月に一度自主研修を実施する。特に経験の浅い教職員の育成に対して、ステージ3、主幹教諭、管理職がメンターチームの活動に積極的に参加することで経験の浅い教職員への関りを強め、指導力向上への取組を積極的に進める。 ②教育課程編成委員会が中心となり、校外行事等の見直しを行い、持続可能な可能な学校経営を行うことができるよう改革を推し進めていく。
担当	企画会・教育課程・メンター
生徒指導	①学校を生徒一人ひとりが安心して過ごせる場にするために、生徒と共有する時間を意図的に増やし、生徒理解に努めるとともに、信頼関係を構築できるよう生徒の気持ちを「受容」する姿勢を教職員が常にもつ。また、保護者との連携を密にし、生徒の特性に合わせた指導に努める。 ②問題行動の未然防止のために、生徒への発信はもちろんのこと、生徒たちが安全により安心して学校を送ることができるようにするために、生徒たちが委員会などを通して、自らが発信できるよう指導を進めていく。
担当	生徒指導部
特別支援教育	①日常生活において、困り感のある生徒、保護者への相談活動を積極的に行い、全教職員の理解のもと、組織として個に応じた手立てを考え、実行していく。スモールステップを大切に、達成時には効果的な声掛けをする。 ②教育のユニバーサルを進める。 ③教室に入れない、長期欠席への対応のため、ステップルームを活用し、自尊感情の回復、社会的自立を目指した取組を行う。
担当	特別支援教育推進委員会
特別活動	①話し合い活動を積極的に実施し、考えを伝え合い、認め合う場面を増やし、生徒個々の交わりを深めていく。 ②リーダーが挫折感をもつことなく、自信をもって、行事を進められるよう、教職員が段階を追って、細やかに指導助言を行っていき、生徒たちが達成感を感じることをできる取組を多くする。
担当	特活指導部・体育大会委員会・合唱委員会
地域学校協働活動	①地域との協働をより進めるために、地域活動協働本部を設置し、学校地域コーディネーター希望者を地域より人選し、講習に参加してもらう。 ②10月に学校運営協議会を立ち上げる。そのために、地域代表と話し合い、学校と地域が連携することの意義について、共通理解を図る。
担当	教育課程編成委員会 学校運営協議会